
沈黙回路

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

沈黙回路

【Nコード】

N5349A

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

沈黙が続くと人間はいろいろなことを考えてしまう。それは必ずしも自分だけじゃない…

手を動かすのは止めない。

でも、あくまで、機械的に動かすだけ。

ずっと誰とも喋らないでいると、頭ばかりが無駄に働く。

あの人も今、同じことを考えているのがもしれない。

チーフは相変わらず無言で自分の仕事をこなしている。

かれこれ二時間近く、お客は来ていない。洗い物は無限に続いているような気がする。

「こんだけ静かだと死にたくなりますね」

冗談混じりに聞いてみたくなる。

でも、チーフが答えたあと私は何を言えいいのか分からなくなるだろう。

出来れば一笑して、何も言わないで欲しい。

そうじゃなければ…そうじゃなければ私は

「一緒に死のう」

って言ってしまうにちがいない。

その場の空気っていうものがやっぱりあって、今なら死んでしまっ

てもいいとさえ私は思っている。

後で後悔するのは分かっている。でも、今しかチャンスはないのかもしれない。

私は泡だらけになった自分の腕を見た。

そういう風に、ある時ある瞬間に、人はフラッと死んでしまえるモノなのかもしれない。

大した理由なんてないんだ。ただ、流れに乗れば人は死ねる。

「こんだけ静かだと死にたくならないか？」

私は虚をつかれた。

問われるのは私だった。

私は

私は

私は…死にたくない…

「何言ってますかチーフ？彼女にでもフラれたんですか？」

私は笑った。

笑えた。

チーフはキョトンとした顔をして一呼吸する。

そして、まあ、いいやって顔をするチーフを見て

心から死ななくて良かったと思った。

泡だらけの手は忙しく動いていく。

静けさの中、水音とパソコンを弾く音が小気味良くなり続けた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5349a/>

沈黙回路

2011年1月16日03時41分発行